

### ＜ハラスメントに関するセルフチェックリスト＞

次の文章の中であなたが正しいと思うものには「○」を、誤りだと思うものには「×」を、迷ったものには「△」をつけてください。

- 1[ ]      セクシュアル・ハラスメントは異性間で起きるものだ。
- 2[ ]      授業中、私語を続ける学生に教員が注意をすることはアカデミック・ハラスメントではない。
- 3[ ]      異性の容姿を褒めるのはハラスメントではない。
- 4[ ]      指導や評価で嫌な思いをしたとき、アカデミック・ハラスメントやパワーハラスメントだと相手を責めるのは当然だ。
- 5[ ]      教職員が特定の学生や部下にだけ話しかけ、それ以外の学生や部下と関わりや指導に差があることもハラスメントの一つである。
- 6[ ]      相手の目の前でため息をついたり、ひそひそ話をする程度はハラスメントにならない。
- 7[ ]      教職員が学生や部下に対して、夜間にメールや SNS で頻繁に連絡してくるのはハラスメントになる
- 8[ ]      担当している学生が自分以外の教員に卒業研究等について相談することを不快に思う。
- 9[ ]      研究室の方針を「厳しい研究指導」と言っているのに、ついてこられない学生は学生自身に問題がある。

## ＜ハラスメントに関するセルフチェックリスト・解説＞

- 1[×] セクシュアル・ハラスメントは異性間で起きるものだ。  
⇒ 同性間でも起こりえますし、女性から男性へのセクハラの場合も少なくありません。
- 2[○] 授業中、私語を続ける学生に教員が注意をすることはアカデミック・ハラスメントではない。  
⇒ 必要な注意や指導はしっかりと行ってください。ただし、言い方や相手の事情（もしかしたら黒板が見えないかも？等）も理解する必要もあります。
- 3[×] 異性の容姿を褒めるのはハラスメントではない。  
⇒ 褒められることで性的なニュアンスを感じたり、嫌だと感じる人もいます。特に力関係があるときには、嫌な思いを持ちやすいものです。また、周りで聞いている人にとって、ハラスメントになり得ることも忘れずに…。
- 4[×] 指導や評価で嫌な思いをしたとき、アカデミック・ハラスメントやパワー・ハラスメントだと相手を責めるのは当然だ。  
⇒ 自分にとって不利益だと思ったら、それがすべてアカハラやパワハラになるということではありません。指導や評価をされた側も自分自身を振り返る姿勢も大切です。
- 5[○] 教職員が特定の学生や部下にだけ話しかけ、それ以外の学生や部下と関わりや指導に差があることもハラスメントの一つである。  
⇒ 「不公平」は疎外感をもたらします。適切な指導ができていないといった観点でもハラスメントになりえる行動です。
- 6[×] 相手の目の前でため息をついたり、ひそひそ話をする程度はハラスメントにならない。  
⇒ 自分がされて嫌な行動は相手も嫌だ、という気持ちを大切にしましょう。
- 7[○] 教職員が学生や部下に対して、夜間にメールやSNSで頻繁に連絡してくるのはハラスメントになる。  
⇒ 自分にとっては夜がオンタイムでも、相手にとっては休息の時間です。頻繁に連絡をされると心が休まらないのではないのでは…。その連絡、明日の朝では間に合いませんか？
- 8[×] 担当している学生が自分以外の教員に卒業研究等について相談することを不快に思う。  
⇒ 学問の自由は尊重されるべきです。指導を担当する学生が他の教員にアドバイスを求めることで、広がりのある学習・研究になることは喜ばしいことです。学生の研究熱心さと受け止める心のゆとりも大切です。
- 9[×] 研究室の方針を「厳しい研究指導」と言っているのに、ついてこられない学生は学生自身に問題がある。  
⇒ 相手の能力、ストレス耐性、体力にのみ責任を負わせるのでは、適切な指導はできません。ついてこられない学生がいれば、相手に応じた達成可能な範囲での必要な指導やフォロー体制を考えましょう。